

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち  
帰り下さい

# 沖縄協会だより

2026.3

No.39



嶋 賢三作

玉に乗った道化 号数：F150

嶋 賢三

大正5年茨城県生

画歴:服部正一郎に師事。二科展岡田賞、毎日国際展、サロン・ドートンヌ招待出品。二科会評議員。昭和61年没。

額サイズ：縦×横×厚【204×248×7.5cm】

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

# 第47回沖縄研究奨励賞・受賞記念講演

沖縄協会は、令和8年1月22日「第47回沖縄研究奨励賞贈呈式」を開催した。今回受賞した自然科学部門の下瀬環氏、同部門の大野豪氏（共同研究代表）・喜久村智子氏・貴島圭介氏、人文科学部門の金閻愛氏に、清水治会長から本賞（黒漆螺鈿賞状盾）と副賞（研究助成金）が贈呈された。贈呈式・受賞記念講演のようすと講演内容を紹介する。



左ら貴島圭介氏、喜久村智子氏、大野豪氏、下瀬環氏、金閻愛氏

## 受賞記念講演の要旨と これからの抱負

### 沖縄の魚の価値を高める方法

【下瀬環】

沖縄の魚は、観賞用だけでなく、沖縄独特の食文化を提供する観光資源にもなっており、県民の食料として利用される水産資源でもある。しかし、沿岸域に生息する魚種は漁獲圧に弱いため、資源量が減少しているものも多く、その資源管理と適切な利用については常に考える必要がある。私は、魚類の生態を研究していた学生時代から、水産物の経済的価値についても興味を持っていた。八重山の市場では、漁業者が獲ってきた水産物が安値で取引されているのを見るたび、貴重な水産資源の価値をさらに高める方法があるのではないかと考えるようになった。そこで、誰もが思いつく「価格の低い小型魚を獲り控える」という水産資源管理の方策について、その効果を定量的に試算してみた。ナンヨウブダイ（いらぶちや）を例に、市場での価格形成要因を分析し、魚の成長による価値（キログラムあたり単価）の上昇を考慮して、重量のみを基にしていた従来の計算方法を改善した。この研究過程では、沖縄県内でも高級魚として知られるスジアラ（あかじん）やクロマグロ（本まぐろ）の競り値に影響を与える多数の要因を定量化し、資源利用の適正化に繋がる情報をも蓄積できた。沖縄県の水産物は、県外との共

通種が少なく多様性も高いことから、県外からの観光客でも県民でも、居酒屋などで提供される水産物の種類は分からないことが多い。そこで、県民に水産物への興味を持ってもらうこと、居酒屋などが観光客を対象に水産物を解説することを通じてその満足度を向上させることを目的に、沖縄県内の水産物を解説した図鑑を作成・刊行した。沖縄の水産物の価値を高める上記の企てがうまくいっているのかはまだ分からないが、これらの考え方や知識を普及させ、沖縄の水産物を魅力的で持続可能なものにする取り組みを続けていかなければならないと考えており、遠い東北の地に赴任した今も、沖縄の水産物研究に関わってほしいと思っている。



下瀬環氏

「美ら島・美ら海をまもる農業」をめざして「害虫管理と生物多様性保全の両立の実現に向けた研究」

【大野 豪共同研究代表・喜久村 智子・貴島 圭介】

化学農業による環境汚染が世界的に問題となっている中で、沖縄ではその独自の生物多様性に配慮した農業が求められている。私たちはハウス栽培の野菜・果樹類を対象として、天敵利用を主軸とした総合的病害虫管理（Integrated Pest Management; IPM）技術の確立に注力するとともに、県内の耕地面積の9割以上を占める露地栽培圃場にも目を向け、IPMから一歩進んだ総合的生物多様性管理（Integrated Biodiversity Management; IBM）を考慮した環境保全型農業への転換に向けた研究を進めている。露地では特定の天敵に頼るのではなく、圃場周辺に存在する天敵種を含む多様な生物たちの働きを最大限に引き出すような栽培環境をつくり上げる必要がある、それこそがIBMの軸となる。IBMの実現に向け、私たちは県全域から害虫・天敵を含む種々の節足動物を採集・同定し、新種を含む多種を発見し、「美ら島」の環境保全の基礎となる生物相の情報を充実させた。さらに「IBM技術確立のモデルケース」として、農業が多用されるキクと水稻を選び、研究を進めてきた。キクでは、害虫・天敵間の「食う―食われる」関係を増強するような環境づくりのため、天敵への影響が小さい農業の選定やその

散布法、害虫が増殖しにくい電照法、天敵温存植物やブースター天敵の活用等を検討し、成果を上げている。水稲では、複数の天敵種を含む種の多様性を上げ、特定の害虫種が増えにくくすることをめざして、環境DNAメタバーコーディングによる最新の生物多様性評価手法をも導入し、国内では前例のない先駆的な研究に取り組んでいる。今後は耕地面積の半分を占めるサトウキビにもBtの研究を拡大する予定であり、沖縄版Btの普及による沿岸域の生物多様性回復効果の実証を行うことも視野に入れている。国の「みどりの食糧システム戦略」は、化学農薬の使用量を2050年までに半減させることを目標に掲げているが、私たちはこれを待たずに「美ら島・美ら海を守る農業」、すなわち本県の農業振興と環境保全の両立を実現したいと考えている。



大野豪氏

演劇集団「創造」の舞台に刻まれた

沖縄

【金 間愛 (キム・ウネ)】

演劇集団「創造」は、1961年に結成され、アマチュア劇団でありながら60年以上にわたり活動を継続してきた、沖縄でも日本全体でもきわめて稀有な存在である。しかし、その長い歩みを全体として捉え、社会運動と結びついた文化運動として正面から論じた研究は多くない。

「創造」は1961年に結成され、米軍占領下で続いてきた差別の構造や、当時主流であった祖国復帰運動への違和感を背景に、政治的スロガンを反復するのではなく、沖縄社会の内側に潜む矛盾や葛藤を演劇という表現を通して問い続けてきた。

1960年代に上演された『アンネの日記』は、沖縄を単なる戦争の被害者として描くのではなく、占領体制のなかで「加害」にも関わる存在として捉え直す視点を提示し、再演を重ねるなかで沖縄戦と戦後を切り離さずに描こうとする試みへと発展した。また、創作劇への挑戦や試行錯誤そのものが、文化運動を深化させる重要な経験となった。初めての創作劇である『人類館』は、日本語・沖縄口・沖縄大和口が交錯して用いられ、植民地主義的差別の問題が単純な「加害／被害」の図式ではなく、沖縄社会内部の問題として描き出された。

つまり「創造」の演劇実践は、沖縄社会が抱えてきた葛藤や迷いを舞台上に可視化してきた。それは、政治的な言葉だけでは表現しきれない人びとの経験や思いを共有する場でもあり、沖縄社会を考えるための独自の視点を提示し続けた文化運動であったと言える。

本研究では、演劇集団「創造」の活動をたどることで、戦後沖縄において文化運動がどのように社会運動と関わりながら、歴史の経験を受け継ぎ、問い直してきたのかを明らかにしてきた。今後は、沖縄の文化運動と韓国の民衆文化運動に注目しながら、東アジアにおける文化と平和の関係について、より広い視野から発信し、学際的な研究の発展に貢献していきたいと考えている。



金間愛(キム・ウネ)氏



清水治会長

沖繩平和祈念堂トピックス

★名護市立緑風学園久志小学校 平和集会

沖繩平和祈念堂には県内外の小・中・高等学校の児童・生徒が平和学習に訪れており、2月19日に名護市立緑風学園久志小学校の児童(16人)による平和集会が行われた。

平和集会に先立ち、悲惨な戦争を体験するため、1フイット運動推薦・沖縄戦40周年記念記録映画「戦場ぬ童(いくさばぬわらび)」を鑑賞した。

集会は、当協会職員による沖縄平和祈念像の説明から始められ、そのあと沖縄戦の全犠牲者に黙とうを捧げた。つづいて、児童一人一人による自分の言葉と全員の群読で平和宣言を発表し平和を誓い、その思いを託した折り鶴を児童代表が平和祈念像に奉納して集会を終えた。

「平和宣言」

私たちのふるさと 沖縄 青い海  
澄んだ空が広がり  
緑の大地に包まれた すばらしい島  
沖縄  
でも 今もなお 戦争の傷跡を残す島

沖繩  
ふるさとをの心を学び 語り継ごう  
私たちの手で  
小さな平和を 足下につくり  
地球の平和を築こう  
私たちの力で  
私たちは誓います  
平和を愛する心を 持ち続けます  
平和を願い 心を込めて 鶴を 全員  
でおりました  
平和への誓いを この鶴に託して  
今ここに 奉納します



名護市立緑風学園久志小学校・平和集会

★(株)沖繩物産企業連合・平和の祈り  
「ウムイ(想い)繋ぐ」プロジェクト  
からの寄付金贈呈

3月4日、(株)沖繩物産企業連合より、同企業連合が令和4年に発足させた「ウムイプロジェクト(コロナ禍で沖繩へ観光客や修学旅行生が減り来館者に影響をうけた平和施設の支援の橋渡しを目的に発足)」に関連して、同企業連合が直営する沖繩宝島ショップに設置された寄金箱に寄せられた浄財の一部を沖繩平和祈念堂整備資金として、昨年に続いて頂いた。

当日は、同企業連合の神野河晃洋さん(リテール事業部リテール事業課・関東地区エリアマネージャー)と砂川



(株)沖繩物産企業連合・寄付金贈呈

太一さん(沖繩宝島さいたま新都心店兼沖繩宝島新宿京王店・店長)が訪れ、当協会座安毅平和祈念堂管理事務所長に寄付金と同企業連合有志が折った折り鶴を手渡した。

★沖繩平和祈念堂玄関・大扉の取替え

1978年に開堂した沖繩平和祈念堂玄関に設置した大扉の取替え工事を2026年3月5日より開始し23日に完了した。取替えは、鋼板製で重量のある旧扉の経年劣化による扉の傾きで開閉に困難が生じたことから、今後の劣化進行で玄関入口の倒壊も考えられ、参観者の安全性を確保するために行った。新しい扉はステンレス製を取り付けて重量の軽量化を図り、スムーズな開閉扉の強度と耐久性を高めた。



玄関・大扉

協会関係事業他募集案内など

★沖繩平和祈念堂改修工事に  
伴うご寄付のお願い

沖繩平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を送付させていただきます。また、インターネットを利用してのご寄付も可能です。Syncable(シンカブル)というプラットフォームにアクセスしていただき、団体を探すページから「沖繩協会」で検索してください。

公益財団法人 沖繩協会  
【電話番号 03-6331-1433】



syncable(シンカブル)

★2026年度沖繩青少年勉学  
支援生募集

2026年度沖繩青少年勉学支援生の応募受付を4月1日から開始する。支援金額は24万円(年額)。締め切りは6月30日まで(当日消印有効)。応募希望者は、本会ホームページの「事業内容」から「沖繩青少年勉学支援制度」へ進み、申請書をダウンロードしてA3サイズでプリントアウトし、必要事項を記入のうえ必要書類2点(在学証明書・在職証明書)を添付して左記の住所へ郵送。7月に行われる審査委員会において、当該年度の勉学支援生を決定する。



本会HP「勉学支援制度」

写真で見る戦前の首里城 Vol.4

沖繩協会には、沖繩関係図書約5,800冊を所蔵する資料室(沖繩平和祈念堂管理事務所二階)があり、その中に『沖繩記録・写真集』1939(昭和14)年4月・5月撮影(撮影者不明)が収蔵されている。2026年の秋に復元を予定している首里城正殿にちなみ、その写真集から戦前の首里城とその周辺をシリーズで紹介する第四弾。



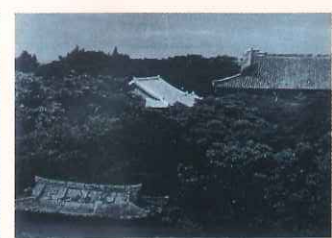
白銀門



久慶門・内側



二階御殿・家門



東(あがり)のアザナから正殿裏側